令和元年度　第２回八千代市農業振興計画策定検討委員会　会議録

１　開 催 日 時　　令和２年２月10日（月）10時30分から12時30分まで

２　場　　所　　八千代市総合生涯学習プラザ　２階　多目的ホール

３　出　席　者　　＜委員＞　１４名　※ 欠席１名

谷口 信和 委員	石井 忠徳 委員	村山 富子 委員
土井 智　委員	若狭 弥一 委員	髙橋 充　委員
斉藤 等　委員	周郷 崇　委員	佐藤 光明 委員
大段 勝裕 委員	星 靖夫　委員	惠 芙久子 委員
宇都宮 康 委員	豊田 和男 委員	

＜事務局＞　７名
萩野課長，周郷副主幹，青野主査補，若梅主事，木村主事
株式会社流通研究所 職員　２名

４　議　　題　　⑴　八千代市農業振興計画策定に係る基礎調査について
⑵　八千代市農業振興計画策定基本方針（案）について

５　公開・非公開　　公開

６　傍　聴　人　　１名　（定員　２０　名）

７　所　管　課　　経済環境部　農政課
電話：０４７－４８３－１１５１　内線：３５６１

会議は定刻に開会され，会議の成立報告及び資料確認等の連絡事項の後，豊田会長が会長あいさつを行った。続いて新任委員として若狭弥一委員を紹介した後，会議の内容に移った。

1　八千代市農業振興計画策定に係る基礎調査について

○事務局

それでは，八千代市農業振興計画策定に係る基礎調査についてご説明させていただきます。使用する資料は，統計データの整理，八千代市農業振興計画に係る農業者アンケート調査概要，八千代市農業振興計画に係る市民アンケート調査概要，八千代市農業振興計画策定に係る基礎調査（考察）の４点になります。「既往資料の整理」と「八千代市ヒアリング結果による意見の整理」につきましては，記載の通りであるため，割愛させていただきます。

まず基礎調査業務委託先の事業者より，統計データの整理及び農業者アンケート，市民アンケートの結果について説明し，次に，統計やアンケート等から導き出された八千代市の農業の現状と課題に関する現時点の考察を私からご説明させていただきます。その後皆様には，アンケート等の結果や考察について，配布した資料等にご意見がございましたらお伺いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それではまず，事業者より統計データとアンケートについて結果を説明させていただきます。それではお願いします。

○事務局（(株)流通研究所）

統計データの整理結果について説明させていただきます。説明に使用する資料は「統計データの整理」という資料です。こちらは八千代市の農業の特徴を掴むために，農林業センサス等の統計データについて，農地，担い手，生産，他市との比較という４項目で整理したものです。

まず，農地について簡単に説明をさせていただきます。①田，畑・樹園地の割合は，おおむね半々となっており，県全体と比べて畑の割合が多くなっています。②経営耕地面積の推移は，10年間で約100ha減少し，特に，畑・樹園地が79haと大きく減少しました。１ページめくっていただいて２ページ目の③後継者不在の経営耕地の割合についてです。販売農家における経営耕地面積のうち，後継者がいない販売農家の農地の割合は，概ね半分となっています。県全体より若干，後継者がいない販売農家の農地の割合は少なくなっています。３ページ目は田，畑の整備率についてです。整備率は，田は八千代市の田耕地面積に占める0.5ha以上の田の割合です。田は，0.5ha以上の区画の割合が県全体と比べて高く，整備が進んでいるといえます。畑は八千代市の畑耕地面積に占める整形された畑，用水が整備された畑の割合について整理しています。畑は，整形の面積の割合が，県全体に比べて少なくなっています。用水は，県全体と同程度の整備割合です。１ページめくっていただいて４ページ目に田の整備状況を地図上で示しています。青色で着色された部分が，0.5ha以上の田の割合が多い地区になります。北部で整備が進んでいることがわかります。５ページ目の⑤耕作放棄地面積の推移についてです。耕作放棄地は，10年間で34ha増加しました。販売農家の耕作放棄地が減少しているのに対し，土地持ち非農家の耕作放棄地は3倍以上に増えました。また，県全体と比べて，土地持ち非農家の耕作放棄地の増加率，耕作放棄地面積全体の増加率が高いことがわかります。１ページめくっていただいて６ページ目に耕作放棄地面積が多い地区を地図上で示しています。麦丸，上高野（かみこうや）で耕作放棄地が多くみられます。７ページ目は後継者がいない経営耕地面積の状況について多い地区を地図上で示しています。北部で特に後継者がいない経営耕地面積が多いことがわかります。

１ページめくっていただいて８ページ目から担い手についてです。①総農家等の推移については，販売農家と自給的農家，土地持ち非農家を合計した総農家等の人数は，10 年間で 121 人減少しています。販売農家が減少し，土地持ち非農家が増えていることがわかります。②専業・兼業別の農家の割合では，専業農家は３割程度となっており，千葉県全体と同程度の割合です。９ページ目は③販売農家の後継者の状況についてです。販売農家のうち農業後継者がいない農家が，半数以上を占めています。県全体と比べて，若干，農業後継者を確保していない割合が低いことがわかります。１ページめくっていただいて 10 ページ目は④農業労働力の推移と見通しについてです。上のグラフの自営農業を主として働いている基幹的農業従事者数は，2010 年以降の５年間で 167 人減少しました。過去の減少ペースから 2025 年までの労働力の推移を推計すると，2025 年には，合計 574 人まで減少するという結果になりました。下のグラフの年齢別では，2010 年以降の５年間で，特に 50 歳代，70 歳代が減少しています。今後の見通しは，40 歳代と 70 歳代では減少幅が小さく，30 歳代，50 歳代，60 歳代，80 歳代で減少が進むと見込まれます。

11 ページ目から生産についてです。①作物の類別経営体数は，露地野菜が 301 件，稲が 283 件，果樹が 97 件となっています。県全体と比べ，露地野菜，果樹類の割合が多く，野菜では，施設栽培の生産者の割合が少なくなっています。１ページめくっていただいて 12 ページ目は②認定農業者の営農類型についてです。認定農業者の営農類型は，水稲＋露地野菜が 19 人，果樹のみが 18 人，施設野菜＋α（露地野菜，水稲等）が 17 人，畜産のみが 12 人となっています。③畜種別の飼養経営体数は，乳用牛 15 件，肉用牛８件，豚２件となっています。

13 ページ目から他市との比較についてです。千葉県，埼玉県の市町村のうち，経営耕地面積に占める水田の割合が，八千代市と同程度で，面積当たりの農業産出額（耕種）が，八千代市より高い千葉県柏市，芝山町，埼玉県三郷市，上里町と比較を行いました。青く着色している数値が他市より低いもので，赤く着色している数値が他市より高いものです。八千代市は，水田の整備率が比較的高いのに対し，畑の整備率は低いことがわかります。また，次のページでは，野菜類の一経営体当たり面積は，他市と比較して小さいことがわかります。

統計データの整理結果の説明は以上となります。

続けて，農業者対象アンケート調査結果について説明させていただきます。説明に使用する資料は「八千代市農業振興計画に係る農業者アンケート調査概要」という資料です。こちらの農業者対象のアンケート調査は，農業者が抱える問題や今後の意向を定量的に把握し，八千代市の農業施策を検討する材料とすることを目的に実施しました。全 18 問の設問から，回答者の属性，現在の経営状況，今後の農業経営の展望の３点を中心に把握しました。

続いて各設問の結果について簡単に説明をさせていただきます。１ページめくっていただいて２ページをご覧ください。

問１から問６までは回答者の属性を把握する設問でした。問１の性別では男性が 78.1%と多く，問２の年齢では，60 代以上の回答者が多数を占める結果となりました。３～５ページの問３耕作地域では，麦丸，桑納といった農村地帯が多くみられました。６ページの問４経営形態では「第二種兼業農家」が半数となり，問５後継者の有無では「農業後継者はいない」が 52.2%となりました。７ページの問６認定農業者の認定の有無では，「認定を受けていない」が半数となりました。

１ページめくっていただいて８ページ以降は現在の経営状況を把握する設問です。

問７水田の面積は，「50a 未満」が多く，問８畑・樹園地の面積は「30a 未満」が多くなりました。続いて９ページの問９栽培品目では，露地野菜，水稲，果樹の順で多くみられました。１ページめくっていただいて 10 ページの問 10 最も販売額の大きい品目では，コメ，梨，ねぎの順で多くみら

れました。11 ページの問 11 主な販売先では，「販売していない（自家消費）」が多くみられました。１ページめくっていただいて 13 ページの問 12 農業経営における問題では，「後継者がいない」，「労働力の不足」，「温暖化，台風増加等自然環境の変化」の順で多くみられました。３ページめくっていただいて 18 ページの問 12-1 負担と感じる作業内容では，稲では「田植（補植，苗の運搬等）」，野菜類では「箱詰」などの出荷調整作業や収穫，果樹では「収穫」や「剪定」が多くみられました。

１ページめくっていただいて 20 ページ以降は今後の農業経営の展望を把握する設問です。

問 13 の今後の農業経営の方針について，５年後は，　「現状を維持」，「分からない」，「離農・引退」の順で多くみられました。「経営規模を拡大」は 11 件みられました。次のページの 10 年後は，「分からない」，「離農・引退」，「現状を維持」の順で多くみられました。５ページめくっていただいて 30 ページの問 13-1 規模拡大を希望する部門では，「水稲」が４件，「露地野菜」，「施設野菜」，「果樹」，「畜産」がそれぞれ３件みられました。31 ページの問 14 農地中間管理機構の利用意向では，「わからない」が最も多く，「貸すことを検討したいので詳細を知りたい」，「中間管理機構に貸したい」も多数みられました。２ページめくっていただいて 34 ページの問 15 農業経営の安定に向け，今後取り組みたいことでは，販売面では「直売所・道の駅で消費者に販売」が多く，生産面では，「品質・収量の向上」，経営面・その他では，「販路の拡大や確保」が多くみられました。７ページめくっていただいて 49 ページの問 16 今後の八千代市の農業振興に向け重要なことでは，「耕作放棄地の解消対策」「農地整備」，「鳥獣被害対策」の順で多くみられました。１ページめくっていただいて 51 ページからの問 17 今後の八千代市の農業振興に向けたご意見では，詳細なご意見は以下のとおりですが耕作放棄地対策などの農地の保全や販売面での支援といったご意見がありました。１ページめくっていただいて 53 ページからの問 18 その他ご意見でも，詳細なご意見は以下のとおりですが耕作放棄地への対応や収益性のある農業への支援といったご意見がありました。３ページめくっていただいて 58 ページは，問 13 今後の農業経営の方針について，規模拡大をしたいと回答した人のリストになります。こうした規模拡大を希望する 15 名について，農業経営における問題，今後の取組み意向について分析したところ，農業経営における問題では，自然環境の変化や農地の分散・点在，農地の条件が悪いといった回答が多くみられました。59 ページの今後の取組み意向については，①販売面では直売所・道の駅販売が多く，②生産面では品質・収量の向上が多くみられました。１ページめくっていただいて 60 ページの③経営面・その他については，農地集積・規模拡大や６次産業化が多くみられました。

これらの結果を整理した総括が，61，62 ページになります。

まず，調査結果の総括１についてですが，今後の出荷先として，産直を志向する意見に次いで，JA 共同販売を希望する意見も多くみられたことから，産直に加えて JA 共同販売が重要な販路であることが把握されました。次に，２についてですが，労働力の不足が問題として高い割合となっているなかで，共選化，機械化，労働力の育成等を視野に入れた，労働力が不足する作業工程への対応策を進める必要があると考えられます。　次に，３についてですが，中間管理事業について，検討する，貸したいといった回答が一定数みられた中で，農地の借り手の確保や基盤整備の検討も含めた中間管理事業の導入を検討する必要があると考えられます。　次に，４についてですが，認定農業者を中心に法人化の意向がみられ，地域共同の法人化を検討するべきという意見もあり，法人化を検討する農業者が存在することが示されました。今後，後継者不在による農業経営の消失を防ぐため，こうした法人化の検討が必要になると考えられます。最後に，５についてですが，専業・法人経営体や認定農業者，面積規模の大きい経営体といった中心的な担い手において品質・収量の向上が大きな課題となっており，研究・検討の支援といった収益の安定・向上に向けた栽培上の課題への対応を進める必要があると考えられます。特に酪農では，10 年後においても離農を明言する経営体はなく，3 件の経営体が 6 次産業化を志向しています。今後経営体間のコミュニケーション

を密にし，共同して６次産業化に取り組み経営を拡大する等，都市近郊の立地を踏まえ酪農業が継続発展する方策を検討する必要があると考えられます。
農業者対象アンケート調査結果の説明は以上となります。

続いて，市民対象アンケート調査結果について説明させていただきます。
説明に使用する資料は「八千代市農業振興計画に係る市民アンケート調査概要」という資料です。こちらの市民対象のアンケート調査は，市民と農業との関係を定量的に把握し，八千代市の農業施策を検討する材料とすることを目的に実施しました。全18問の設問から，回答者の属性，農産物の購入状況，農家・農業との関わりの３点を中心に把握しました。
続いて各設問の結果について簡単に説明をさせていただきます。１ページめくっていただいて２ページをご覧ください。
問１から問４までは回答者の属性を把握する設問でした。問１の性別では女性が56.9%とやや多く，問２の年齢では，50代以上の回答者が半数以上を占める結果となりました。次ページに進みまして，問３の居住地域では，大和田新田，村上，勝田台といった住宅地域が多く，１ページめくって４ページの問４の世帯員数では２人以上の世帯が多数を占めました。
５ページ以降は農産物の購入状況を把握する設問です。問５の外食・中食の頻度は，「週に１～５回程度」が半数を占めました。続いて２ページめくっていただいて８ページの問６の質問では農産物を購入する店舗ではほぼ全ての回答者が「スーパー（通常の売り場）」を利用していることがわかります。９ページの，その中で最も利用する店舗についても，「スーパー（通常の売り場）」が多くみられました。２ページめくっていただいて 12 ページの問６－１最も利用する店舗で購入する農産物の金額の割合は，「スーパー（通常の売り場）」も「スーパー（地場野菜コーナー）」も３割が多くみられました。13ページの問７八千代市の農産物で思い浮かぶものでは「梨」が87.8%となりましたが，他の品目はいずれも50%を下回りました。１ページめくっていただいて15ページの問８農産物を購入する際に重視することでは，「鮮度」が82.7%となりました。２ページめくっていただいて 18 ページの問９農産物を購入する場所で見たことのある八千代市産農産物については，「梨」が78.4%となりました。１ページめくっていただいて21ページの問１０八千代市産農産物の購入状況については，「あれば購入している」が47.0%，「特に気にしていない」が36.1%でした。
４ページめくっていただいて29ページ以降は農家・農業との関わりを把握する設問です。問12の現状の八千代市の農業との関わりについては，「直売所等で市内産農産物を購入する」が 46.0%となりました。２ページめくっていただいて33ページの問13多面的機能への期待については，「新鮮な農産物の提供」が85.8%となりました。２ページめくっていただいて36ページの問14農地保全の重要性については，「重要と思う」が73.8%，「重要ではない」は1.6%となりました。２ページめくっていただいて41ページの問14-1の「重要ではない」の理由については，大和田といった地域で「土ほこりが発生する」がみられました。２ページめくっていただいて44ページの問15今後八千代市の農業と関わる意向については，「直売所等で市内産農産物を購入する」が 73.4%となりました。２ページめくっていただいて48ページの問16学校給食への地元農畜産物の活用については，回数や種類をさらに増やした方がよいが31.8%となりました。次ページ49ページの問17の八千代市の農業の保全のための取組みについては，「八千代市産農産物を買える場所を増やす」が62.7%となりました。１ページめくっていただいて51ページの問18八千代市の農業・農地の保全に対するご意見については，詳細なご意見は以下のとおりですが食育への取組みや八千代産農産物のPRに関するご意見が多くみられました。
これらの結果を整理した総括した結果が，64，65ページになります。

まず，調査結果の総括１についてですが，直売所・道の駅やスーパー（地場野菜コーナー）の利用割合が低い若年層や，近くに売っていないなど地元農産物を購入しにくい状況にある都市部住民への地元農産物の供給拡大が考えられます。次に，２についてですが，農産物の購入時に鮮度を重視する人は，八千代産農産物を積極的に購入する割合が少ない結果となったことから，「地元農産物は新鮮でおいしい」という基本的な地産地消のメリットの理解を広めることで，八千代産農産物の選択購入につながる余地が残されていると考えられます。次に，３についてですが，世帯数の多い地域を中心に７割以上の市民が農地を保全することを重要とするという結果がみられたこと，また，多面的機能に対する期待や自由回答の意見から，市内の農地が，新鮮な農産物の提供等に貢献していることの理解を広めること，都市部等多くの人の目につく農地の有効活用を図ることで，土ぼこりを抑制するなど，対応を図ることにより，農地を重要とする市民の増加につながると考えられます。次に，４についてですが，にんじん，ねぎについて，八千代で比較的生産量の多い作物である一方で，認知度は梨の87.8%に比べて，にんじん36.3%，ねぎ25.2%と低い結果となり，特に若年層でその傾向がみられました。次に，５についてですが，市民と農業の関わりについて，今後増える余地があり，労働力の供給も期待できる点が示されています。市民の農業との関わりは，現状における農業との関わりに比べ，将来の関わりの回答が全般的に高い結果となりました。特に，直売所の利用は，現状が46.0%に対し，今後関わりを持ちたいとの回答が73.4%，味覚狩りは，現状が18.1%に対し，今後が35.5%となっており，利用を拡大することが期待できます。労働力として働く意向は，農繁期のアルバイトの割合は3.9%と割合としては低いですが，八千代市の生産年齢人口約12.4万人に換算すると，5，000名程度の労働力確保に結び付けられる可能性があります。最後に，６についてですが，食育の積極化への高い期待がみられました。学校給食における地元農畜産物の活用について高い割合がみられ，食育の実施に協力する意向のある回答者も存在し，市民の協力を得て食育を積極化して展開することが期待されます。

市民対象アンケート調査結果の説明は以上となります。

○事務局（萩野課長）

続きまして，私から今の説明を踏まえた八千代市の農業の現状と課題についての考察を説明させていただきます。説明に使用する資料は「八千代市農業振興計画策定に係る基礎調査（考察）」という資料です。資料の構成ですが，まず，各調査結果から把握されたことを，２ページ目から，八千代市の農業の現状として農地，担い手，生産，流通・販売の４項目で整理しています。その後，８ページ目で，現状を八千代市の農業を取り巻く機会・脅威，八千代市農業の強み・弱みといった切り口で整理し，課題を分析しています。ここで洗い出された課題を，９ページ目から，農地，担い手，生産振興，流通・販売の４項目で整理しています。

まず，各調査結果から把握できた八千代市の農業の現状からご説明させていただきます。２ページをご覧ください。

はじめに農地の現状についてです。まず，規模拡大に適した畑・樹園地の確保が困難という現状があります。八千代市の農地は，水田と畑がそれぞれ半数ずつ占める中，畑は，整形の畑が少なく，収量の安定に必要となる用水が整備された畑が少ないです。畑の整備が進んでいないため，にんじん，ねぎ等の露地野菜及び飼料用作物の生産者は，畑が小規模に点在し，機械作業に適した農地の確保が難しい状況にあります。樹園地においては，規模拡大の意向があるが，利用権の設定期間について短期のケースが多く，投資を回収するために必要な長期的な農地の貸し出しに結びつきにくいことから経営の規模拡大が困難という意見がありました。こうした状況の中で，八千代市の農業者の生産規模は比較的小さくなっています。また，条件にあう農地を望む意見があります。

次に，未整備水田の存在があります。八千代市の水田は，市全体でみると 1.0ha 以上の区画の割合が多く，県下トップクラスの整備水準ですが，集落単位でみると，麦丸，桑納，桑橋，平戸，上高野，下高野，萱田下等で未整備の水田が残されています。また，整備済みの水田においても設備の老朽化が進んでいます。現在，桑納川地区において，土地改良事業の導入に向けた検討が進んでいます。

次に，耕作放棄地の拡大と耕地の減少があります。八千代市の耕作放棄地は，県全体と比べても早いペースで拡大しています。理由としては，農地所有者が土地持ち非農家に世代交代したことや整備された畑地が少ないこと，未整備水田での耕作放棄等が考えられます。また，経営耕地面積は，畑を中心に減少しています。

次に，農地中間管理事業への関心の高さがあります。農業者アンケートの結果，農地中間管理機構への貸付については，検討したいとの回答を含め，島田，麦丸，萱田町，桑納，寺台，上高野，下高野，萱田下，島田台等を中心に合計 43 名と多数の農業者が関心を示しました。農村ゾーンにおいても意見が上がっています。

次に，農地集積・生産基盤整備に向けた環境の進展があります。国は，農林水産業・地域の活力創造プラン等の方針に基づき，農地の 8 割を担い手が耕作する方向を目指しています。こうした方針に基づき，農地中間管理機構による農地集積・集約化や，基盤整備等の取組が推進されています。

次に，都市農地の位置付けの変化があります。都市農業振興基本法が成立し，市街化区域の農地に対する国の方針は，従来の宅地化すべきものから，都市にあるべきものへと変更されました。これに伴い，生産緑地の指定期限を延長する特定生産緑地制度の創設，生産緑地の建築規制の緩和，生産緑地を貸与した場合の相続税納税猶予の継続等，都市と調和し，都市の特性を生かして営農を維持・発展するための制度改正が行われました。八千代市においては，約 47ha の生産緑地があります。

次に，北部地域の市街化調整区域を農業中心の土地利用とする市の方針があります。八千代市都市マスタープランでは，市の北部地域を中心とした市街化調整区域について，農産物の生産の場として農業を中心とした土地利用を図り，優良農地の確保などに努めるとともに，南部市街地と対をなす自然を満喫できる場として維持保全していく方針としています。

次に，担い手の現状についてです。まず，生産性向上に意欲的な担い手と組織の存在があります。認定農業者，法人経営体等を中心に，ブームスプレーヤー等の大型機械の導入，ハウスの導入等に取り組む考えを持っています。また，八千代市には，にんじん，ねぎ，なし，施設栽培等において，農業者の組織が存在します。こうした組織は，生産者が協力して気候変動への対応や栽培方法の改善，品種等に関する情報を共有し，対策を検討・研究するといった組織的対応を積極化する意向を持っています。

次に，規模拡大を志向する担い手の存在があります。農業者アンケートの結果，認定農業者や法人経営体を中心に，経営規模を拡大する考えの担い手が，5 年後 11 名，10 年後 9 名と少数ながら存在します。こうした農業者の規模拡大を支援する必要があります。

次に，担い手支援の充実があります。国は，農地中間管理機構による担い手への農地集積・集約化の取組と合わせ，人・農地プランで位置付けられた中心となる経営体等に対し，機械・施設等の設備投資に対する支援を継続して行っています。千葉県では，JA 等の関係機関と連携し，千葉県農業者総合支援センターを開設し，農地確保，生産技術，販路確保，法人化等の農業経営に関する様々な相談に応じ，農業者の個別の状況を踏まえて支援策を提案し，推進する体制を整備

しています。また，八千代市では，千葉農業事務所改良普及課により，にんじん，梨，施設野菜等の園芸の生産者組織に対する指導等の支援が行われています。

次に，新規就農支援の充実があります。新規就農者への支援については，農業次世代人材投資資金により，就農の準備期間と就農後を合わせ，最長7年間150万円を支給する支援を継続して行っており，年齢制限は従来の45歳未満から50歳未満へと変更されました。また，50歳代の就農希望者を研修する機関に対し，研修費用を助成する支援が始まる等，国の新規就農支援は年齢層の拡大と拡充が行われています。次に，市民の農業への参画の意欲があります。市民アンケートの結果，農地を確保して就農を希望する人材が存在します。また，農繁期に働く考えや食育の実施に協力する考えの市民も多数存在します。一方，多面的機能の活動組織は，活動参加者の確保に苦慮している状況や，農業ボランティアの活動者が減っている状況もあります。このことから人材のマッチングがうまくいっていない状況にあることが読み取れます。国の新たな食料・農業・農村基本計画のとりまとめに向けた検討では，女性の経営・社会参画，多様な人材の確保を進める必要性が検討されているため，今後の国の動向にも注目し，検討・推進の必要があります。次に，労働力不足の深刻化があります。農業者アンケートの結果，労働力の不足は，上位の問題となっています。特に八千代市では，多品目の経営等，機械化が難しい状況や物流に手間をとられている担い手がいます。こうした農業者は，親世代の高齢化に伴って労働力が不足し，経営規模を縮小する状況になることを心配しています。また，農業者アンケート結果では，果樹では収穫・剪定が，にんじんでは箱詰・ほ場からの運搬・洗浄が，ねぎでは仕分け，箱詰めが，稲では補植，苗の運搬等で特に労働力が不足しています。次に，新規就農が困難ということがあります。耕作放棄地が拡大している状況や，後継者不在の経営耕地が半数を占める状況から，経営耕地を維持するため，新たな担い手の確保が必要な状況にあります。八千代市では，農業協同組合が，農外から就農者を確保し，部会等の生産者として確保する取組が模索されている他，就農希望者を研修生として受け入れる農家がある等の新規就農に向けた取組が行われていますが，貸与希望等の農地の情報に関する周知が不足していること，就農希望者が農地を借りる信用を得にくいこと，就農時の設備投資資金の確保が困難なことから，就農が進みにくいとされています。次に，担い手の不足があります。高齢化，後継者不足により，担い手が不足しており，この結果，農地集積を進めつつも農地の受け手が不足して耕作放棄地の拡大に歯止めがかからない，農産物直売所では地元の農産物が集まらない，共同販売作物の出荷量が減少しているといった問題が起きています。また，経営耕地面積の約半数が後継者不在の農地であり，今後の耕作放棄地の拡大が心配されます。基盤が整備された水田では，集落の法人により水田農業が営まれているが，法人の中心的な担い手が高齢化し，組織の後継者を確保できていない法人もあります。

次に，生産面の現状についてです。まず，環境保全型農業の基盤があります。八千代市は，都市農業としては珍しく，耕種・畜産の両方の農業がおこなわれており，環境保全型農業の基盤を有しています。現状では，堆肥の品質の面から，畑作における堆肥の利用が限られている等，環境保全型農業の取組は限られているが，市民に八千代市産を差別化する上でのキーワードとして，環境保全型農業の積極化を期待する意見があります。

次に，スマート農業の進展があります。情報通信技術やセンサーで観測する技術を活用したいわゆるスマート農業が進展しており，今後の情報通信技術の進展や，生産基盤の整備等の環境整備に伴い，スマート農業の導入領域は広がり，スマート農業に取り組む地域では，生産効率が増すと考えられます。

次に，気候変動による生産環境の悪化があります。近年の相次ぐ台風等により，八千代市内外

においても農産物や農業施設への被害が発生しています。農業者アンケートの結果でも「温暖化，台風増加等の自然環境の変化」は，八千代市の農業者が直面する上位の問題となっています。次に，都市化による生産環境の悪化があります。都市化により，防除，機械作業の音，土ぼこり等に対するクレームがあり，従来のやり方で農作業をしにくい状況となっています。こうした問題は，市街地の農地の他，市北部の農業振興地域においても起きています。

次に，鳥獣による農産物被害についてです。農業者アンケートでは，鳥獣による農産物の被害は上位の問題となっていますが，市の被害額調査結果は減少となっているので確認が必要となっています。最後に，流通・販売の現状についてです。まず，直売所の品不足があります。八千代市の地産地消は，多品目を生産し，直売所で販売することにより拡大してきたが，生産者の高齢化等を背景に，直売所・道の駅への出荷が減少し，品不足となっています。利用者確保の面では，従来の顧客が高齢化・減少する一方，新住民を顧客として確保できていない状況や消費者の生活様式の変化を背景に，売上が低迷しているとされます。次に，市内の農産物の需要があります。いちごは交流センターで集客し市内の各いちごハウスに人を誘導する仕組みづくりを求めているためどの様な誘導かの確認が必要となっています。市民アンケートの結果では，世帯数の多い地域を中心に，地元農産物の販売を拡大する余地が残されていることがわかります。

次に，地元農産物に差別化を求める量販店のニーズがあります。地元農産物は，多くの量販店が地場野菜コーナーを設置し，取り扱い拡大の意向を示すが，他産地と差別化されていない八千代産の農産物が，通常の売場の同一品目より割高となると売れ行きが鈍る状況があります。一方，鮮度で優位性のある葉物，ブランド化しているなしは，差別化されているため割高でも売れる状況があります。こうした中，地元農産物を取り扱う量販店は，適正価格に留意しつつも，地元農産物のブランド化・優位性の周知・消費拡大に向けた取組について，行政や出荷団体と連携して取り組む意向を示しています。

８ページでは，こうした現状を，八千代市農業を取り巻く機会と脅威，八千代市農業の強みと弱みという切り口で整理し，各項目を掛け合わせることで，八千代市農業の強みを活かした機会・脅威それぞれへの対応と，八千代市農業の弱みを考慮した機会・脅威それぞれへの対応という観点から課題を分析しました。

強みを活かし機会を捉える，という部分では，農地集積集約化の推進，農機導入の支援，八千代産農産物の差別化，法人化の推進が課題としてあげられます。強みを活かし脅威に備える，という部分では，時間も押しているため記載のとおりとなっています。機会を活かし弱みを補うという部分でも，記載のとおりとなっております。事態の悪化を避けるという部分では，販売先と連携した生産振興，環境変化に対応する栽培技術の研究支援，市民の積極的な農業参画の促進が課題としてあげられます。９ページ目からは，これらの課題を農地，担い手，生産振興，流通・販売の４項目で整理したものです。

農地では，土地改良事業の導入や大区画化，多面的機能支払交付金の活用等を含めた未整備水田等の整備，大型機会の導入等の条件に合うような畑地の整備，これらと合わせた農地集積集約化の推進が課題となります。担い手では，人・農地プランで新規就農者を地域の担い手候補に位置付けることや，出荷団体の生産部会が就農を希望する研修生を受け入れる等，就農希望者の地域への浸透を手助けすること，農地の確保等，総合的な支援を行政と出荷団体が連携して進めるといった新規就農の推進，意向のある農業者の法人化の支援，食育による市民の農業理解の促進，農業ボランティアの育成や有償による労働力確保の取組の検討など，農繁期に必要となる計画的な労働力の育成，水田の法人への雇用就農も視野に入れた市民の積極的な農業参画の促進が

課題となります。生産振興では，露地野菜を対象とした農機導入の支援，新品種導入やICT技術の活用などの環境変化に対応する栽培技術の研究支援，店頭での地元農産物の確保を目的とした直売所等の販売先と連携した生産振興が課題となります。流通・販売では，鮮度や農業の多面的機能のPR，環境保全型農業の推進も視野に入れた八千代産農産物の差別化，高齢化による生産量減少を抑制，意向のある担い手の規模拡大を実現するため，共選化する工程や，必要となる施設の規模・機能，整備費用，維持管理コストを試算などの共選化の検討支援，なしについて，観光体験農業といったほ場直売型農業の拡大が課題となります。各調査で把握された現状と課題を説明させていただきましたが，こうした課題を基に，八千代市農業振興計画における方向性，具体的な施策を検討していくこととなります。

調査結果の考察についての説明は以上となります。

○豊田議長

それでは，今の事務局からの説明につきまして何かご意見やご質問等，お願いいたします。

谷口委員いかがでしょう。

○谷口委員

私が最初に話してしまうと他の委員が話しにくくなってしまうのではないでしょうか。一番最後に話をしたいと思います。

○豊田議長

分かりました。ではこちらから指名をさせていただきたいと思います。消費関係の委員である惠委員いかがでしょう。

○惠委員

アンケート調査について，農業者も市民も積極的に受け止めて回答していると感じます。特に，自由記載がとても多いことが興味深かったです。食育に関して，幼稚園や学校といった場所での実践や，大学生含めた農業後継者の育成，アジア圏の人の受入など，検討していっていただければいいと思います。

○星委員

全体的に見てみると，八千代市産農産物を売っている場所が少ない，わかりにくいという印象が消費者の立場としてはあります。道の駅はわかるのですが，スーパーでも，どの程度取り扱っているのかよくわからないと感じます。

○大段委員

商工会議所としても八千代市産として差別化を図るにあたり，梨やにんじんは上位にあたると想定しており，実際に梨のカレーのイベントをやったこともありますが，梨の特性として出荷時期が限られており，周知していくのが難しい状況にあると感じています。また，やっちブランドセレクションで人参ドレッシングがありますが，収穫時期の関係で生産が止まってしまう時期があります。自然相手で難しいと思いますが年間通じて出していければと思います。

○佐藤委員

市民アンケート結果で，梨は知られているが，にんじんやねぎは知られていないという結果が出ており，こういった品目も販売に力を入れていきたいと思います。去年の９月から八千代市産農産物の販売を行っていますが，年間を通じて商品が潤沢に入荷されないことが販売側としてデメリットになっています。売り場として存在しているので穴を空けるわけにはいかないということがあります。年間を通じ，時期別に入荷できる品目があれば，販売としては大きく規模を拡大できるし，アピールもできると考えます。

○豊田議長
今，年間を通じた生産の関係で佐藤委員より意見がありましたが，生産者側として土井委員，何かご意見ありますか。

○土井委員
気候条件が変化しており，台風も増加している中，昔と同じ栽培方法では，同じ時期に同じ品質のものができなくなっています。無理に早く種を播いてもうまく生育せず，出荷してもクレームがくるなどどうしても出荷できない時期はでてくるのが現状です。気象条件が非常に悪くなり生産者としては作物を作るのがすごく難しくなっています。多品目で栽培しても，手間がかかり，１つの品目が少量になるといった事情があります。

○豊田議長
クラフトさんの方でも多品目取り扱っていると思いますが，その辺の関係で何かご意見ありますか。

○周郷委員
車の免許を返納したなどで八千代市産農産物を買いたいが買えない人が出てきています。この30年で直売所のあり方というか農業のあり方も変わってきました。これから新しいことをやらないと生き残れないと感じています。先ほど荷物が集まらないという意見がありましたが，だんだん直売所も売れなくなってきているので農家も，スーパーに出荷するようになってきました。どうしても人口がいるのは京成線や東葉高速線沿いになりますのでそこからお客さんを引っ張らないといけないと思うのですが，スーパーの力を借りなければ農家も生き残れなくなってきているのかなと思っています。農家も直売所も残していかなければいけない中で，京成線や東葉高速線沿いの人を直売所にお客としてどう誘導してくるかという課題が出てきました。いま全国で直売所が寿命を迎えて消えてきているといわれています。今後農家の方にどのように荷物を持ってきてもらうかが課題となっています。

豊田議長
続いて畜産の方のご意見を頂きたいと思います。

○髙橋委員
八千代市は都市化と農業保全とどちらに進みたいのかと思います。都市化の中でどのように生き残るかを考えて農業をやってきました。簡単に規模拡大といいますが，規模拡大をすると排せつ物が多く出ます。規模拡大しようにも畑が減っている中で堆肥を増やすことは難しく，付加価値をつけるにも牛乳は独自の販売は難しい現状があります。生乳メーカーに八千代市産として牛乳を販売してほしいと持ち掛けているが，メーカー側も採算の見込めないものはつくりません。生産面は，

自分たちの力だけではどうしようもないのが現状です。担い手の問題については，機械化や研修生の受け入れ，食育への取組みなどをやっている人もいますが，労働力不足を補う取り組みを行っているのは全員ではありません。市の方でどの程度力を入れて農業全体の後継者を補っていくのかということは今後の課題なのではないかなと思います。

○豊田議長
今畜産の立場から自身の経験も踏まえてご意見ありましたが，農協として斉藤委員ご意見ありますか。

○斉藤委員
JA としても直売もありますが，共選という出荷体制も併せて整備しなければならないと考えています。直売と併せて市場出荷も活用していく方法を私たちはベストバランスと呼んでいるのですが，多く生産した時は市場に流しながら直売とバランスをとっていただくというようなことを提案しています。
JA ではインショップが市内に４店舗あり，市内全域に出荷できるよう整備を進めなければいけないと考えています。

○豊田議長
若狭委員，土地改良ということで水稲の方も規模拡大したいということはありますか。

○若狭委員
私のいるところは勝田という地域で規模の小さいところなので，規模拡大の意向のある方はいません。拡大の意向がある方は北部の方であると思います。
農業者アンケート中の今後の意向について，わからない，離農という人が 57.8%存在し，これは非常に大きい数字で，ここをどうしていくのか考えないと耕作放棄地も増加していくと思います。農業者は 60 歳以上の人が多く，高齢化への対応も考える必要があります。米価が低下していることに後継者が育たない一番の原因があると感じています。価格が高ければ，やろうという方も増えるのではないかと思います。

○豊田議長
宇都宮委員，もしアンケートのクロス集計等こういうクロスをした方がいい等ご意見があればお願いしたいと思います。

○宇都宮委員
市民アンケート中，農地保全に肯定的な意見が 73.8%と多く，驚きました。こうした市民が存在することは大切にしていくべきだと思います。一方で市民と農業者の関わりについては，市民農園に関する関わりついて非常に低い割合もみられ，これはどうしたものかなと思っています。八千代市の南部と北部で農地と市街地とはっきりわかれているような土地性が感じられました。混在している自治体ではもっと都市部の住民から市民農園をやりたいという声が出てくるところがあるのですよ。まだそういう部分が醸成されていないのかと気になっています。ですからそこにもっと農業と都市住民の交流という場が開けていく可能性というのはあるのかもしれないです。

○石井委員

先日の農業委員の総会において市民農園の案件が上がってきました。市民農園は需要があり，市内でも増えてきています。ただ，市民農園が増えすぎると農家の販売先が減る側面もあると感じています。農福連携については，障害を持つ方たちがハウス内で野菜を栽培し，販売はせずに自家消費のみしている事例があります。

○豊田議長
続きまして村山委員いかがですか。

○村山委員
露地野菜は昨年特に気候条件に左右されました。後継者不足に関して，周囲の農家は皆 60 歳以上で，後継ぎもいない状況で，今後どうなるのか不安を抱きました。

○豊田議長
今後継者のお話もありましたが，谷口委員お願いいたします。

○谷口委員
回収率の高さと，自由記載が多いことに驚きました。書いた人数が多いのみならず，書かれた内容が多いことにも驚きました。私の今までの経験ではないことです。すごいことです。もう一つはこうしたアンケートの実施を通じて，市民に行政が農業をなんとかしようという気持ちが伝わったのではと思います。こういうことは今までも行ってきたと思いますが，今回は今までと何が違ったのか，もっと分析しないといけないと思います。
資料について専門家の観点から申し上げますと，一つは大変良くできているので皆さんこれに反論できないと思います。分析もまとめも。ただそれを見て皆さんが納得してさあ頑張ろうという気になったかというとなっていないと思います。今，国が食糧農業農村基本計画の策定を進めており，大変すばらしい作文がされているのですけれども，なぜかその通りにならないまま時がずっと過ぎて，自給率が下がって後継者がいなくなっていることは，２０～３０年前と同じです。何をどうすればいいのかはっきりしてないのですね。そこを解かないといけないと思います。
非常に細かく分けて分析した結果は，みんなそれぞれ正しいのですけれども，トータルとして八千代市の農業はどうなって，トータルとして八千代市の市民がどういう生活をしていて，八千代市の農業にどういうことを期待しているか，大枠がわからないのですね。そこが明確じゃない。
統計から現実を掴もうとするのは間違っていて，統計はアンケートの問の枠の中でしかみていないのですね。その中での相手の答えですから嫌々答えているかもしれない。でも，自由記入欄は自分の言いたいことを書いています。ここをまとめて欲しいのです。これを，どういう分類になっていて，どこに一番多くの生産者の波が集中しているのかね。これがはっきりしないから何となく一般的な内容を見て終わってしまっているのではないかと。やっていることは間違っていないのですけれども，順番を変えるだけで中身が相当変わるのではないかという気がします。
もう一つは担い手のところです。５年後と１０年後で何が違うかというと５年後よりわからない人が１０年後はぐっと増えるのですね。当たりまえですよね。その時にですね，微妙な変化をしているのですけれども，現状維持が減っています。維持できる人がいなくなってしまうのですね。ということは今専業農家で頑張っている方に５年後を聞いて販路を拡大したい，どこそこに売りたいといっても，その後どこにというのは答えられないと思いますよ。答える側からすると。息子がいれば規模拡大につながるのですけれども，いなかったら，５年間は頑張るよ，だけどその後は縮小だというのも出てきてしまうのですね。ですからそこを仕分けしないといけないと思います。簡単

に言ってしまうと農業者は二つの基準だけで全部区分してしまった方がいいだろうと。一つは現在の担い手の状況を規模拡大とか色々分けていく。これ大事です。と同時にもう一つは耕作放棄地です。彼らは土地を全部使っているのかいないのか。実際どうなっているのかわからないですがデータとして出ている。でそこのところはどうなっているのか一つ大きい問題としてあるだろうと。これは気持ちではなくて使えていないという現実ですから。現実を知ることはやっぱり大事ですね。そこからものを判断しているはずですから。

消費者の方は簡単で２つしかないと思います。一つは地元産のものを食べたいのだけれどもどうしたらいいか。これはどんな風に分布していて，地域的に分布しているか。これをはっきりさせれば一つ片付きます。もう一つはこれだけ農業に関心を持っている人はみたことありません。今まで色んなところでやってきましたけれども。その方々が一番言いたいことは，農業に参画したいってことですね。農業への参画が子供のレベルから自分のレベルまで色々あってたくさんやりたいのかちょっとなのか，見学なのかいちご狩りなのか色々ニーズがある。その観点を二つだけで分けてね，それでもって全体をどういう問題状況にあるのかというところから，後のことを説明してもらった方がねすっきりするのではないかと。この二つを結べばほとんど振興計画が立つのではないかなと。で何が言いたいのかというと全体として振興計画のスローガンがはっきりしない。個々の課題がたくさん並んでいるけれど，担当課の方全部確認しましたけれど，皆さんどこへ行きましょうというのが見えてこない。それが出せればね，完成だと思うので。そういう方向に向かうように議論をどう集めていくかということに絞るようなことを考えないといけない。みんな頭良すぎちゃってね，分析しちゃうんですよね。分析は分析のための分析ではなくて八千代市の問題はここだし，方向はこうだということを言ってもらうために分析しているんですね。総合するということをもっとやらないといけない。総合しているところがどこに現れているかというとアンケートにおいては自由記入欄なんですよ。だからそこから始まっていって最後そこに戻っていく。その間にアンケートのデータを十分に使えばもうほとんど素材は満ち満ちてあるのではないかなと。今日ではとても議論できないと思いますけれども，この後やるわけですけどその素材はいっぱいあるんでね。すごくいい資料が出来たと私は感謝していますし，１００点はちょっと出せないんですけれども８５~６点はいっているんじゃないかと。であと５点あげるために今言ったところをちょっとしたスパイスとして入れていただきたいと思います。以上です。

○土井委員

議長。ちょっといいですか。農地中間管理事業は実態がよく見えてこないのですけれども，もう実施されているのですか。

○石井委員

これから実施する予定です。県と地主が直接契約するため，どの程度集まるのか，と感じています。

○豊田議長

ご意見ありがとうございました。今頂きましたご意見を会長一任で整理・反映させていただきながら，基礎調査結果についてまとめていくということでよろしいでしょうか。

＜異議の声なし＞

○豊田議長

ありがとうございました。基礎調査結果がまとまりましたら，検討委員会の皆様には送付させていただきます。続きまして，次第３，議題の⑵八千代市農業振興計画策定基本方針（案）について事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

ご意見ありがとうございました。まだ基礎調査を取りまとめるまで時間がありますので，課内や委託事業者他にアドバイスを頂くべき関係機関があればそちらとも調整を図りながら最終的にまとめていければと考えておりますのでよろしくお願いします。

それでは，「八千代市農業振興計画策定基本方針（案）」について説明させていただきたいと思いますが，時間もかなり押しておりますので，お手元の配布資料をご覧いただき，中身についての説明は省略させていただきたいと思います。「八千代市農業振興計画策定基本方針（案）」ということでＡ４版の資料をご覧ください。この「八千代市農業振興計画策定基本方針」は，次年度，計画策定を行っていくにあたり，基本的な事項を定めたものとなっています。委員の皆様にも内容をご承知いただきたきたく，提示させていただきました。

中身について一つだけご説明させていただきます。農業振興計画はそれに基づいたアクションプランというものを関連するプランということで立ててそれを実施していくということで計画は作る予定となっております。内容をご確認いただいてご承知おき頂ければと思います。事務局の説明は以上です。

○豊田議長

何かご意見はありますか。

○谷口委員

一つだけ。アンケートを取ったのは今年ですよね。来年度計画として作って５年後はもうプランの終わりっていうか５年後なんですよね。そういう時間感覚だということを頭に入れて作らないといけないということですね。

○豊田議長

他にご質問はございますか。特に無い様ですので，八千代市農業振興計画策定基本方針として策定の手続きを進めて参ります。こちらにつきましても，事務処理が整いましたら，委員の皆様に送付させていただきたいと思います。

以上で次第３の議事につきまして終了いたしました。円滑な進行にご協力いただきありがとうございました。続きまして，次第の４，その他ということで，事務局よりお知らせしたいことがあるようなので，事務局，よろしくお願いいたします。

○事務局

事務局より２点お知らせさせていただきます。

まず１点目についてですが，次回の検討委員会は次年度に開催する予定であるため，委員が変更になる可能性があると思われます。なるべく事務局で捕捉したいと考えておりますが，御異動や役員交代等がございましたら，農政課までご連絡いただけると幸いです。

２点目は，本日お車でお越しの委員がいらっしゃいましたら，会議終了後，事務局までお申し出ください。お知らせは以上です。

○豊田議長

以上をもちまして本日予定しておりました内容は全て終了いたしました。皆様のご協力により，本日の会議内容を滞りなく終えることができました。誠にありがとうございました。

これにて閉会いたします。

○事務局

傍聴者の方は，本日の会議資料を傍聴受付までご返却いただきますよう，よろしくお願いいたします。なお，お持ち帰りになりたい資料がございましたら傍聴受付までお申し出ください。